

「私を変える祈り4」

2024.5.29
祈りのシリーズ④
ルカの福音書 11:2~13

前回私たちは「御国が来ますように」「みこころが天で行われるように、地でも行われますように」と祈りました。それは私たちの人生だけでなく、日々の生活の全てを、私たちを愛してやまない父なる神様を信頼して任せて、今日も渡していますということです。

私たちの生活に必要なものは全て、自分の手には無く、神様の手の中にあるのですから、子どもが親に言うように「日ごとの糧」を与えて下さいと祈り、与えられるのです。

今日の聖書の学びの要点

- ・ 神様の手の中にある自分を自覚し、祈り求めるなら全て与えられる。
さらに求めるなら、神様ご自身であるご聖霊を与えてくださる。

I、神は必要を与えられる

(ルカ 11: 3)

1、神様から^{いのち}生命を与えられている私たちが求めなければならない「日ごとの糧」とは何でしょうか。

①私たちが生きるために、体に必要なもの = 健康、衣・食・住

②傷つきやすい心を守るために必要なもの = みことば

・ 家族、他の人との人間関係

・ 知恵が与えられるために知識

③神の前に生きる魂に必要なもの = 神様から与えられる最良のご聖霊

2、愛の神様は「日ごとの糧」が私たちの心と魂を左右することを
知っておられます。

①私たちはどのようなものでしょうか。箴言 30:9 を読みましょう。

「私が満腹してあなたを否み、『主とはだれだ』と言わないように。

また、私が貧しくて盗みをし、私の神の御名を汚すことがないように」

- ・金持ちで満腹した心はどうなり易いでしょうか。 --- ルカ 12:15～21
- ・貧しいと、私たちの心はどうなり易いでしょうか。

②本来、神様が与えて下さるものとは、どのようなものでしょうか。

一天からのマナー (出エジプト 16 : 16～18)

全ての人にちょうど良い

Ⅱ、神の前に豊かであるために

1、私たちに与えられる、最も良いものとは何でしょうか。

(ルカ 11: 1～10)

2、神ご自身のご聖霊が、私たちの心に与えられるために、私たちが
のけることは何でしょうか。(ルカ 11: 9)

3、ジョージ・ミュラーの証し

英国ブリストルの孤児の父といわれたジョージ・ミュラーは、人に願わないで神様にだけ祈って多くの孤児を養いました。ある日の朝も、食べるものが何もなくたのですが彼は 400 人の子供たちとテーブルについて、神様に食事の感謝の祈りを献げました。祈り終わった時、玄関のドアがノックされ、そこには馬車一杯の焼きたてのパンと新鮮な牛乳がありました。近くの工場がその日行う行事のために注文していた物でしたが、その日悪天候で、行事が中止になり業者の人が処分を考えていたとき、孤児院で食べてもらえないかと持って来たのでした。信仰の人ジョージ・ミュラーはご聖霊によって、いつでも神様だけを頼り、全ての働きをしていました。